

格差と貧困をなくします

日本共産党 4議席



市議会議員
いぬい紳一郎



市議会議員
小田桐たかし



市議会議員
徳増きよ子



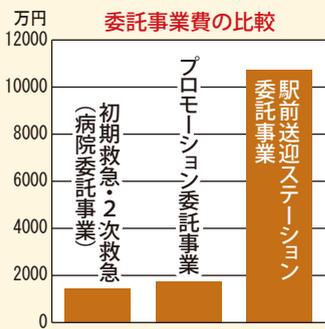
市議会議員
植田和子

小児救急医療

なんと広告宣伝費より少ない支援

平日夜9時から翌朝8時まで小児初期救急を委託されている東葛病院では、小児救急による赤字(4000万円前後)と小児科医の不足で、「小児救急が続けられない」との声も…。「母になるなら、流山市。」と市が宣伝(プロモーション)し、子育て世代を誘致しても、小児救急が大幅縮小すれば、安心して暮らすことはできません。

日本共産党は、救急病院への財政支援がプロモーション費よりも少ないと厳しく指摘。命を守る小児救急医療の強化を強く求めました。



世界と日本の情勢が激動する中で開催された12月議会。日本共産党は、都市間競争に駆り立てられ、身の丈に合わない大型事業を推進する井崎市政を厳しく批判。国保料値上げに反対し、国民には何の利益もないアベノミクスから、市民生活を守るために奮闘しました。

国保 国保料引き上げに反対しました

「同じ症状で来院しても診察するのは子どもだけ」……深刻な市民生活の一端を医師も語ります。そんな中で流山市は、平均3・6%1億4800万円の国保料値上げを提案しました。

「値上げはやむを得ない」と自民・公明などが賛成。日本共産党は「国

基準が緩和された訪問介護利用者者はたった9人

他市に先駆け4月から始めた軽度者の介護保険外し、10月末現在で93

4人にのぼります。しかし、99%の利用者は今までの通りの介護を求めています。利用者の願いを無視した『手抜き』介護の押しつけは許せません。



くらし 保育料の軽減、就学援助の充実を提案

年金削減、消費増税、雇用破壊、医療介護の改善……貧困と格差が大きくなっています。

日本共産党は、生活保護制度を正しく知らせ、さらに、医療費の支払い困難な方には無料低額診療

(市内では東葛病院だけ)や国保の病院窓口負担の減免制度の周知を提案。

また、全国で広がっている保育料負担軽減策や非婚シングルマザーへの寡婦控除適用、就学援助の充実拡大を求めました。いま流山市では、就学

おおたかの森駅前市有地 公共公益性が一番大事

25億円つぎ込んだ流山セントラルパーク駅前市有地は、賃貸マンションと私立幼稚園・私立小学校に提供(50年の定期借地)され、市民のほとんどが市有地を活用できません。

おおたかの森駅北口市有地も、35億円を投入し確保。市民の公共公益性の向上が期待されましたが、井崎市長は、計画・設計・建設・運営の全てを大手民間事業者にゆだね、各種の入札や備品購入、各施設の料金も事業者の意向が優先されます。これで本当に公共公益性が確保されるのでしょうか。

子にこたえる、流山市。」を守る世論と運動を広げましょう。

負担増 5年連続の負担増計画 否定できず

援助の対象となる所得基準を引き上げることが議論されています。「学ぶ

来年度の値上げは国保料に留まりません。保育料は2年連続、市民総合体育館利用料は3〜4倍の値上げとなる団体も。

しかも、昨年の後期高齢者医療保険料値上げ、今年度の介護保険料値上げに続き、3年連続です。更



身近な要求実現

道路冠水への対策 実現へ(三輪野山)

いぬい紳一郎



側溝フタかけ (駒木台)

小田桐たかし



かっぱ寿司横歩道ポール設置

徳増きよ子



森の倶楽部、スロープ横の敷石、ぐらつき改善

植田和子

